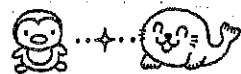


# たんぽぽぐみ



クリスマス制作

クリスマスリースを作りました。傘袋に数色のマジックの中から好みの色を自分でえらび、絵を描き、糸綿を入れました。その後、保育者が麻ひもで形を整えたものに、松ぼっくり、どんぐりをホンドでくっつけてクリスマスリースの完成です。工程ごとに、教員おっで進めてきた制作ですが、友だちがしている、「なにしてんの?」(名前)もしたしと興味、意欲がいっぱいの子もたくさんです。始めの傘袋に絵を描く工程では、リースと言われても、「??」という感じだったと思いますが、リースの形になっていくと、なんとなく喜んでくれるような感じがありました。散歩に出かけ、リースを見つけた時には、指をさして知らぬ姿もあり、心の中には、自分たちが作っているもの、作ったものと違うという親近感のようなものが芽生えているのかなと保育者は勝手に感じていました。糸綿を入れる工程では、傘袋の入り口が小さいので、糸綿が手にくっついてうまく入れられずにイライラしている姿もありました。糸綿を握り、一生懸命に入れている小さな手がとても可愛らしくもあり、イライラばかりも頑張り過ぎて成長を感じました。自然物を飾りつける工程では、動作、器用さ、理解力など、当然ではありましたが、年齢差を感じることもできました。それもまた、見守り、応援の部分でもあり、成長を感じる部分でもあります。リースミカドあたり、じつと考えながら、たり、ホンドの理解が苦手で困っていても、作りたい気持ちもありソワソワしたり、ひとり一人違った姿を見ることができました。これからの成長が楽しみです。完成したリースを子どもたちに見せると、「わーっ。(名前)のは?と聞き、自分たちが作ったものを見て喜んでいました。一つの物を自分で完成させた、できた喜びを感じ、小さな自信でもいっので、そこにつながってくれていると、嬉しく思います。1月はコマに絵つけのようなこともします。個性豊かなものができるのを楽しみにしています。



子ども同士の関わり

1歳児クラスの月齢では、色々な成長が見られる時期です。身体を上手に動かせるようになり、動きが活発になり、ことばを習得、理解の深まりや、ひとりでもできることも多くなります。目を向けられる範囲も広がり、しかし、4月生まれの子もから3月生まれの子もか、集まった集団では、もちろん発達にも違いがあり、友だちとの関わりが出てくる時期月ではありますが、トラブルも多くなります。自我も芽生え、自分の気持ちをうまく言葉にすることがまたまた難しい時期でもあります。友だちと関わる中で、思いつくか、思いを言葉にお互いに手が出したり、噛みついてしまうこともあります。石巻かに、手を出さず、噛むことは良くなることです。しかし、きっと子どもたちの心の中では、さくさく高鳴っているのではないかと感じます。

# しいの実ぐみ・たんぽぽぐみ・みずぐみ

## クリスマスだより

2021.12.28



12月に入り、寒さがぐっと厳しくなってきましたが、冷たい風の中でも元氣いっぱいの子もたくさんです。これからの時期、感染症が流行したコロナも新たな変異株が流行りだしているりと、まだまだ気をつけながらの生活にはなりますが、新年明けて1月に元氣な子どもたちに会えることを楽しみにしています!!

## しいの実ぐみ

今月も新しくお友達が増え9人になったしいのみぐみです。子どもたちも自分よりぐっと小さなお友達に興味津々で、「ベビーベッド」ものをぎぎと入ったり、手を伸ばして角虫をみようとしたりととても微笑ましい姿を見せてくれています。少しづつお友達の存在を認識し、一糸者にいることが「楽しい! 嬉しい!!」と思ってくれるように、してきたしいのみさん。お外に出ると、お帽子を並べると自分のを探し、そしてお友達の所にも持っていくくれたりもします。まずは保育者が優しく接することで、子どもたちが「こうすればいいんだ!!」と気付き、お友達に優しくすることができるようになる。この素敵な連鎖を大切にしていきたいです。

## クリスマスツリー作り、トナリ

クリスマス制作で久しぶりにえのぐを使いました。今回は筆を使ってみる子どもたち、手で楽しむ子どもたち、また、黄緑色の子どもたち(保育者が足の裏にえのぐを塗って足型を取る3Dプリンターでツリー作りを楽しみました)。えのぐは3色、自分たちで好きな色を選び、順番に画用紙に色をつけていきます。初めての筆の感触にニヤニヤと笑ったりぐっと集中し、真剣に画用紙と向き合ったり様々な表情を見せてくれる子どもたち。手で楽しんだ子どもたちも、みんな手につくえのぐの感触を、手と目でしっかりと確かめていました。初めてに出会ったときの素敵な表情がとてもかわいい子どもたちでした。シール貼りもできる子は楽しんでみました。何層もシールを持ちかえて糸綿コップに見るうとする姿、とても真剣に糸綿コップに向き合う姿、小さいシールがうまく貼られず、何層も「アー!!」と上を向いてみたり、かわいくおもしろい姿も見せてくれました。1月から楽しくいるん姿が見れたらいいなと思います!

お休みの日も本音同音せず元気に過ごせますように。来年もどうぞより多くお預かりします!!

# みずぐみ

12月に入り、園舎の色々な場所でクリスマスのかざりを見つけると、「あれなに?」「クリスマスのかざり?」と興味津々で見つけていた子どもたちでした。みずぐみでは、絵本の時間に「クリスマスおめでとう」というクリスマスのお話を読んでいました。絵本に出てくるかわいい男の子の赤ちゃんの名前は「イエスマ」であることは、何回かお話をしている中で自然と覚え、赤ちゃんが出てくるたびに「イエスマやー!」と答えてくれるようになりました。12月はクリスマス制作を中心に活動しました。ホンドにつけたどんぐりは御旅所に散歩に行った時に子どもたちが拾って持って帰ってきたものでした。全員で見つけたどんぐりは袋2つ分ぐらいの量がありました。制作で使う時に「これみんなで見つけたどんぐり?」と確認する姿が見られました。

日中の活動の中で「〇〇(ちゃん、くん)がこんなことを言った」という報告を聞きます。そこで保育者は「言われてどんな気持ちだった?」と子ども自身の気持ちを聴いたり、受けとめ「じゃあこの気持ち(相手に)伝えてみたら?」と自分の言葉で伝えられるように促しています。もちろん、うまく行かない時もあります。保育者の見守りの中で子ども同士で少しずつ自分なりの言葉で伝えたり、お友だちと向きあおうとしています。

## わらべうた

わらべうたは昔より、その時の気持ちを動きや歌にして作られていました。例えば「いっぽんぼしこちよこちよ」「いもむしころころ」など聞いたことがありますか? 子どもも歌いやすくリズムもあり、つい口ずさんでしまう歌です。わらべうたは歌を通して、手や指を使ったり、スキンシップにより子どもの情緒が安定することにも繋がったり、歌にあわせてリズムを取りながら身体を動かすことでよい刺激にもなります。

〈例〉・おべんとうのうた ・おてらのおしょうさん  
・なべなべそこぬけ など

友だちとの関わりも増えてきた子どもたち。園でも活動の中でのふとした時わらべうたを取り入れていきたいと思えます。ぜひ家庭でも歌ってみてください。

今年もありがとうございました。  
また来年もよろしくお預かりいたします。